



博物館学習シート（中世）

（平成 年 月 日 氏名 ）

このシートは、博物館の展示のうち歴史の学習と関係の深い資料について、みなさんが自分で調べるときに使います。

疑問に思ったことや、よくわからないことは博物館の人に聞いたり、帰ってから各自で調べて見たりしよう。

鉛筆と下敷きを用意しましょう。（ペンやマジックなどは持ち込んではいけません。）

- 1 合戦（戦い）の絵が展示されていますが、武士たちは何のために武装して戦ったのでしょうか

- 2 源頼朝が鎌倉幕府を開くとき、それをささえたのは主に武蔵武士でした。中でも村山党は、現在の入間市周辺を領地としていました。この地図の中から、村山党の武士を見つけてみましょう。



その中で、入間市内を領地としていたのは誰でしょう。展示室の説明をよく読んで答えましょう。

- 3 この部屋にある、人の背丈ほどの石の碑を板碑いたびといいます。市内円照寺えんしょうじにあったものですが、何のために作られたのでしょうか？



胎蔵界大日三尊種子板碑円照寺蔵

ちょっと一息

鎌倉幕府成立に貢献した金子十郎家忠

皆さんは金子十郎家忠という人物を知っていますか？

家忠は、平安時代の終わりから鎌倉時代の初め頃（今から約800年前）に活躍した武蔵武士で、現在の入間市の加治丘陵周辺を領地としていました。この時代は、貴族の世から武士の世に変わった時代で、源氏と平氏の争乱に象徴される激しい闘いの行われた時代でした。一時は平清盛が武士として初めて太政大臣となり権力を一身に握りましたが、その後源頼朝を総大将とした源氏方が平氏を攻め滅ぼし、武士の政権である「鎌倉幕府」が成立しました。

このような争乱の中で、武蔵国の武士たちは源氏方について活躍をしましたが、もっとも勇猛果敢な武士の1人として、多くの手柄をあげたのが金子十郎家忠です。家忠の活躍ぶりは、多くの書物（軍記物）に記されていますが、家忠の勇猛ぶりがよく表された「衣笠城攻めの逸話」をここで紹介します。

1180年源頼朝が伊豆で平氏討伐の兵を挙げたときには、まだ多くの武蔵武士が平氏に領地を認められていて、その恩に応えるため、平氏方について戦いました。家忠も、畠山重忠や河越重頼らの武蔵武士とともに、頼朝方の三浦義明・義澄らの衣笠城（現横須賀市）を攻めました。このときの家忠の活躍は目覚しく、一説には体に矢が21本刺さっているが軍の先頭にたつて衣笠城攻めたといわれ、獅子奮迅の活躍をみせた家忠に敵方である三浦義明から一献の酒が送られ、その武勇を賛美されたそうです。最後は義明のこどもである和田義盛に矢を射られて倒れましたが、これは金子十郎家忠の剛勇を物語るエピソードの一つです。（『源平盛衰記』より）

その後家忠は、こうした活躍が認められて恩賞として播磨国（現在の兵庫県）に領地が与えられました。

見学を終えて

・博物館の見学をしてあなたは、どの展示物が一番印象に残りましたか

・それはどの時代ですか

・印象に残った理由はなんですか

・見学をしていて、疑問に思ったことはありませんでしたか

ある

ない

・それはどのようなことですか